

動物介在療法学詳論 (2単位)

担当者氏名 安藤元一・土田あさみ・川嶋舟・内山秀彦

◆学習・教育目標

生物介在療法学特論(一)での内容をさらに深めることを目標に、ここでは主に動物に主軸をおいた内容とする。農学分野と教育分野の両面から検討することで、その効果や評価に影響する諸要因についてバイオセラピー学的領域からの理解を深め、より実践的な力を養う基盤とすることを目指す。動物介在療法や動物介在教育を実践する上で欠くことのできない動物に関する知識をさらに広め、求められる介在動物像やその現状について検討を加え、理想的側面と現実的側面の両方から動物介在領域についての多角的視野を養う。

◆取り扱う領域(キーワードで記載)

動物介在療法 動物介在教育 介在動物 介在動物の育成
介在動物の育成 衛生と防疫 _____ _____

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	人と動物の関係における課題提起	1・2:現在の AAT,AAA についてその有用性を考	動物との関係性がもたらす人への影響を理解し、動物のもつ可能性について広い視点で考える 各自で動物を教育に活用することについての意見をまとめておくこと。
2	人と動物の関わりによる内的変化について	察し、人と動物のかかわりが及ぼす人への影響を特論(一)よりさらに掘り下げる	
3	介在動物としての適性(1)	動物介在療法に活用される動物を考える	
4	介在動物としての適性(2)	介在動物に求められるものを検討する	
5	介在動物とその育成	AAT や AAE に適した動物の育成方法を考える	
6	介在動物の質的保障とその評価(1)	介在動物としての適性評価法について多面的に学ぶ	
7	介在動物の質的保障とその評価(2)	介在動物に求められる資質と現実、およびその判断基準について学ぶ	
8	AAT/AAA における評価方法	育成動物を AAT や AAE に活用したときの評価について学ぶ	
9	AAT/AAA における動物の福祉(1)	9・10:介在動物の健康や福祉と人への効果について考える	
10	AAT/AAA における動物の福祉(2)		
11	AAE の効果	AAE の必要性について検討する	
12	AAE に求められる動物とは	医療的活用とは異なる活動に求められる動物の資質について学ぶ	
13	動物活用に関する応用的領域	動物園、博物館等の施設における人の心身の健康効果、QOL 向上への応用について学ぶ	
14	動物を活用するためのガイドライン	動物管理や福祉の観点から学校での動物活用のための体制を考える	
15	人獣共通感染症	動物活用に欠くことのできない衛生について学ぶ	

◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

特に指定しない

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

アニマルアイステッドセラピー/オーブレイH. ファイン編著/インターズー(2007)

◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

講義への参加の態度やレポートをもとに評価する。

◆その他受講上の注意事項

動物に対する興味だけでなく、人も含めたあらゆる生き物に興味をもって、生き物の力を教育、福祉、健康に活かすことがバイオセラピー学であることを理解して講義に望んで欲しい。
